

校内研修計画

甲州市立井尻小学校

1 学校課題

本校の 97 人の子どもたちは、のびのびと明るく活動的である。何事にも真面目に取り組む児童が多く、恵まれた自然環境のなか、様々なことに興味をもち意欲的に活動している。単学級のため、友人関係が固定化している面もあるが、休み時間や放課後には学年を越えた交流もあり、諸活動でも上級生が下級生の面倒をよく見ている姿を目にする。学習面では、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多く、宿題はもちろん、授業の復習や計算練習、漢字練習等を自主学習ノート（いじりの子ノート）に取り組んでいる。また、読書活動も活発で、年々貸出数も増え、昨年度は一人当たりの平均貸し出し数が、290 冊であった。しかし、全ての学習の基礎・基本となる言語に関する知識理解や文章を正しく読み取る力、聞く姿勢や聞き取る力、自分の考えを言葉や文章で表現する力、対話させ、深めて発表につなげる力などは、まだまだ十分とはいえない。

このような児童の実態を受け、年度当初に「確かな学力の育成」を図ること、「言語活動を工夫した授業の実践」や「基礎基本の定着」、「指導力の向上」「学習環境の整備」「ユニバーサルデザインを意識した授業づくり」に取り組むことなどが学校経営の概要で示され、全職員が同一歩調で取り組んでいくことが確認された。

2 研究主題

「思考力・判断力・表現力の育成」～伝え合い、学び合う授業づくりを通して（2年次）～

3 主題設定の理由

昨年度は「思考力・判断力・表現力の育成」～伝え合い、学び合う授業づくりを通して～という研究テーマのもと、自分の考えを持ち、それを自分の言葉で伝え合うことで、課題を解決できるような「思考力、判断力、表現力等」を育成するための授業づくりを進めてきた。「自分の考えを持たせるための手立て」「自分の考えを表現する場の工夫」「自分の考えを深めるための手立て」「表現力を身に付けるために必要な言語活動」の手立ての4つを意識しながらの授業を行い、実践を積み重ねてきた。

また、高学年ブロックで、「教師の問い返しアイデアカード」「発表のさせ方アイデアカード」を作成したことは、大きな成果となった。発問を考える上でのよりどころとなり、教師の問い返しの技能や子供に発表をさせるための技能が向上した。このような研究の成果を受けて、今年度も、さらに、児童の思考力・判断力・表現力を育成するために、対話させ、深めて発表につなげ、自分の考えをもち、それを自分の言葉で伝え合うことで、課題を解決できるような「思考力・判断力・表現力等」を育成するための授業づくりを今年度も進めていきたい。その際、甲州市内の全小中学校で取り組んでいる「確かな学力」育成プロジェクトの「学級づくり、集団づくり」「授業づくり」の取り組みとの関連を図り、しっかりとしたベースを築いていきたい。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 「思考力、判断力、表現力を育む」ための手立てについて研究する

- ・ 「自分の考えを持たせるための手立て」「自分の考えを表現する場の設定」「自分の考えを深めるための手立て」を考え、実践を積み重ねる。
- ・ 表現力を身に付けるために必要な言語活動を充実させる。
- ・ 各教科、行事、特別活動、総合的な学習の時間と関連するユニバーサルデザインを意識した授業づくりを行う。
- ・ 前年度作成し、取り組んだ「教師の問い返しアイデアカード」「発表のさせ方アイデアカード」を使った授業づくり。

- ・ 言語力の基礎を育む日常的な取り組み（音読，発表，書く活動，語彙を増やす活動，読書等）の工夫を行う。
- ・ プログラミング教育に関する学習会を持つ。
- ・ ユニバーサルデザインの授業づくりについての学習会
- ・ 職員間で授業を公開し合い，学び合う機会を持つ。
- ・ 文献や先行研究実践事例を調べ，多くの情報の中から研究につながるものを収集する。

(2) 家庭との連携を行う。

- ・ 「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習（いじりの子ノート）の指導・活用推進
- ・ 授業参観や自由参観日でのいじりの子ノート展覧会の実施

(3) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとのかかわり

- ・ 「甲州市ティーチャーズノート」を活用した授業づくり
- ・ ハイパーQ-Uの結果を，K13法で分析し，それを基にした学級，集団づくり
- ・ 「家庭教育・子育て」Q&Aを利用した保護者への啓発
- ・ 「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習の指導，活用の推進

(4) 児童の実態を調査し，その変容を把握し指導に生かす

- ・ 各種学力調査，児童の意識調査，ハイパーQ-U（K-13法）

年間校内研修計画

研究主任 山下 史江

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	TC
①昨年度の研究の概要・成果と課題 今年度の研究の方向について		研究主任	全体		
②今年度の研究内容，研究計画の決定					
③ブロックの研究内容の決定		各ブロック長	ブ ロ ック		
④K13法による分析（1回目）	学級集団づくり				
⑤意識調査について		研究主任	全体		
⑥理論研究「プログラミング教育」 ユニバーサルデザインについて	総合 理科 算数	校長 研究主任			
⑦ブロック研究の内容決定		各ブロック長	ブ ロ ック		
⑧意識調査の結果	各教科等	研究主任	全体		
⑨ICTの活用についての学習会 ブロック研究	各教科等	研究主任		夏休み	○
⑩NRT，全国学力学習状況の結果と 今後の対応策についての交流	各教科等	研究主任			
⑪授業案検討会	算数	佐野教諭			
⑫授業案検討会	算数	佐野教諭			
⑬第1回授業研究会	算数	佐野教諭		10月	○
⑭K13法による分析（2回目）	学級集団づくり	各ブロック長	ブ ロ ック		
⑮一人一実践の振り返り	各教科等	研究主任 授業者	全体		
⑯いじりの子ノートについて		研究主任			
⑰研究のまとめ，研究紀要について		研究主任			
⑱今年度の成果と課題，来年度の方向性					
⑲研究紀要製本作業					